

医療法人社団武蔵野会 TMG あさか医療センター
医療福祉部
助川 禎通 (すけがわ ただなお)さん

東京福祉大学卒業
医療ソーシャルワーカー歴3年（2024年現在）
群馬県出身



1. 医療ソーシャルワーカーを目指したキッカケ

医療ソーシャルワーカーになろうと思ったのは、祖母の入院がきっかけでした。

当時、学生であった自分が時間に比較的余裕があり、入院先の病院へ通い、荷物の受け渡しやお見舞いをしていましたが、ある日、突然、主治医の先生から「退院について考えてほしい」と言われました。私は何も準備をしていなかったの、頭が真っ白になったのを今でも覚えています。

その時、看護師さんから「病院の中に患者さんや御家族の方の相談役がいますよ」と声をかけていただき、医療ソーシャルワーカーの方を紹介していただきました。

医療ソーシャルワーカーの方と相談することで、自分のその当時に抱えていた悩みを打ち明けることができ、今後の方針や進んでいく道がみえ、退院の準備を進めることができました。

その経験から医療ソーシャルワーカーに興味を持ち、日本医療ソーシャルワーカー協会の学生講座に参加したり、学生向けの病院研修にも参加しました。現場で働いている医療ソーシャルワーカーの方と触れ合う中で、「せっかく社会福祉士の資格を取ろうとしていて、医療ソーシャルワーカーになることができる機会があるのだから目指してみたい。そして、私のように不安を抱える方へのお手伝いを支援の中でしてみたい」と思い、志すようになりました。

2. 医療ソーシャルワーカーの仕事をしてみて

大学では幅広い「社会福祉士」の実践分野を学んでいましたが、医療ソーシャルワーカーについては私自身、病院で実習を行うことなく入職したので、1年目はすべてが新鮮でした。漠然と、「いろいろな経験を積みたいから急性期医療機関で働きたいな」と思い急性期病院を選択しましたが、最初は現場に流れているスピード感についていくのがやっとでした。

医療ソーシャルワーカーについての理解は、学生時代の病院見学や現場での一日研修、日本医療ソーシャルワーカー協会の学生向け研修に参加していた程度でしたので、特に一年目は不安なことも多かったのですが、職場でのスーパービジョンや日本医療ソーシャルワーカー協会に加入して院外研修を受けることで、勉強することができました。

知識と経験を積み、支援実践を行うようになり、次第に医療ソーシャルワーカーとして働いている実感を抱くようになったことを覚えています。

3. 医療ソーシャルワーカーの仕事の「やりがい」は何ですか

相談に来られた方が面接を終えた後に、安心した様子をみせられたり、笑顔で帰られる姿を見たときは、嬉しさと共にやりがいを感じています。私自身が、不安を抱えながら医療ソーシャルワーカーに相談をした経緯もあるので、同じように悩んでいらっしゃる方に対して、気持ちを受け止めながら話をお伺いして、「話してよかった」、「打ち明けたことで今後進む方向が見えてきたな」と、思ってもらえるような支援が出来ればと日々思っています。

また、病院内には様々な専門分野のスタッフがいて、チームとして患者様の支援を行っています。最善の支援を目指して、各専門職と対等に意見を出し合って協議を行い、そのほか院外の医療機関や福祉施設、行政機関とも連絡を取り合っています。多職種をつなぐ連携業務にはすごくやりがいを感じますし、大前提としてクライアントである、患者様やご家族と一緒に、退院後の生活について考えている時間はすごく充実していると実感しています。

4. 今後について考えていることがあれば教えてください。

しっかりと自分自身の実践を、もっと言語化できるようになりたいと日々感じています。自分の支援を言葉にできれば経験や感覚ではない形でケースを振り返ることができますし、実践を見つめ直すことが出来れば反省や改善に繋がり、ひいてはそれがクライアントの支援にも繋がっていくと思います。また言語化が出来れば、新しく入職してくる後輩の医療ソーシャルワーカーにも伝えられる内容、伝え方・伝える表現も増えると思います。

医療ソーシャルワーカーは言葉を使って面接などを行いますので、いろいろな面で言語化力を高めたいです。

5. 学生に向けて一言

働いていて大変な部分もちろんありますが、先ほどお伝えしたやりがい、楽しさがあって、今現場で医療ソーシャルワーカーとして4年目を迎えています。この時間では伝えきれないこともありますし、実際に働いてみての感じ方は人それぞれだと思いますが、私はこの仕事が自分に合っていたな、この仕事をしていて良かったな、と思いお話をさせていただきました。

このホームページを見られている方は、少なからずMSWに興味を持ってもらっていると思いますので、学生のうちに医療ソーシャルワーカーの現場を直接見て、体感、体験する機会に是非飛び込んでみてください。